

大串兎代夫著作目録

松田 義男 編
改訂 2019年6月22日
2011年7月25日

目次

1. 著書(共著・訳書含む)
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)

凡例

- *「1. 著書(共著・訳書含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *単著については、目次構成を【 】に示した。連載評論についても、副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、国立国会図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、日本近代文学館、東京都立中央図書館、法政大学大原社会問題研究所、京都大学附属図書館・同人文科学研究センター・同法学部図書室、京都産業大学図書館、神戸大学社会科学系図書館、神戸市立中央図書館、大阪府立中央図書館、大阪市立大学学術情報センター、愛知芸術文化センターアートライブラリー、岡山大学附属図書館、岡山県立図書館、金光図書館、熊本県立図書館、東京大学教育学部図書室より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

カール、シュミットの主権論『上杉先生を憶ふ』七生社、1930年4月7日

*『最近独逸に於ける国家学の趨向』〈謄写印刷 国民精神文化研究所第5期研究員筆記代用〉国民精神文化研究所、1935年2月〈埼玉大学図書館所蔵〉

『全体国家論の抬頭』〈国民精神文化類輯 第6輯〉国民精神文化研究所、1935年3月19日【1 純粹法学、2 純粹法学より国民国家学へ、3 国民国家学の要旨、4 国民国家学とプロイセン政変、5 全体国家の思想とナチス国民革命、6 国民国家学の批判及結語】[『国家学研究』収録]

『天皇機関説を論ず』邦人社、1935年4月18日【はしがき、1 国家法人説成立の歴史、2 我が国に於ける国家法人説、3 美濃部説の大体と上杉博士の批評、4 美濃部博士の学説に於て不穏当なりと思惟せらるゝ諸点、5 天皇機関説をめぐる論争と我が憲法】

序『軍人と政治』柳沼七郎著、紀元書房、1935年7月9日

国家権威の問題—独逸国家学の新傾向—『国民精神文化講演集 第二冊』国民精神文化研究所、1935年10月3日

大串兎代夫『最近国家思想と日本憲法』[1935年6月講演速記於思想問題講習会]〈思想研究資料第140号〉海軍省教育局、1936年1月

『最近に於ける国家学説』文部省、1936年10月9日[1935年7月文部省憲法講習会講演記録]【序論、1 国家法人説の由来、2 エリネツクの国家学説、3 ケルゼンの国家学説、4 新ドイツ国家学説】[『現代国家学説』収録]

『最近に於ける国家学説』日本文化協会、1936年10月9日【1 国家法人説の由来、2 エリネツクの国家学説、3 ケルゼンの国家学説、4 新独逸】

『国家の觀念と国防』〈京都府国防協会講演集 第12号〉京都府国防協会、1937年3月10日

『全体思想の再検討』〈国民精神文化類輯 第19輯〉国民精神文化研究所、1937年3月26日【1 独逸と日本、2 独逸の国家改造、3 ナチスと日本の相違点、4 他国からの文化影響に関する反省】

『戦争と国家』〈時局国民精神読本 第4輯〉国民精神文化研究所、1937年11月20日【1 事変と戦争、2 長期抗戦論について、3 近代国家の体制、4 人種の支配、5 民族主義に於ける「種」、6 同化、7 同胞意識】[『国家学研究』収録]

社会存在に於ける国家権威『日本国家学』〈新鋭哲学叢書 第14巻〉高陽書院、1937年9月28日[Die Staatsautorität im sozialen Sein の部分訳]

『帝国憲法に就いて』[静岡県立富士高等女学校]、1937年

『日本の勃興と政治の転換』〈第一出版時局叢書 第5号〉第一出版社、1938年6月14日【1 日本の勃興、2 民族精神の世界観、3 中央集権と法治主義、4 官職一如、5 政治の本質、6 経済と政治、7 議会制度の精神、8 議会と公論、9 議会制の行く道、10 臣節を明らかにすべし、11 国家改造の一断面、12 断想録、13 御親政の御心に随順す、14 法と国家倫理】

『帝国憲法と臣民の翼賛』〈国体の本義解説叢書 第8号〉教学局、1938年12月15日【1 憲法の御制定、2 我が国憲法の特質、3 外国憲法との比較、4 天皇御親政と臣民の翼賛】

ナチス法治国[オットー・ケールロイター著、翻訳]『ナチスの政治組織』〈新独逸国家大系 第4巻 政治篇4〉日本評論社、1940年9月29日

ナチス党の組織的構造[ハンス・ファブリチウス著、翻訳]『ナチスの政治組織』〈新独逸国家大系 第4巻 政治篇4〉日本評論社、1940年9月29日

政治と国民生活『日独文化の交流—日独学徒大会研究報告—』荒木光太郎編、日独文化協会、1941年1月30日

『現代国家学説』文理書院、1941年7月15日【第1篇国家学(最近に於ける国家学説、権力・権威・陵威、ナチスへの理解、家族国家の理念、日本国家学の理念)、第2篇世界観(民族の世界性、歴史・国家・世界、権威論—指導者と指導性—、法と国家倫理)、第3篇世界観(東亜の事態と新しき政治理念—領土の観念—、新政治体制の基本動向、天皇御親政、大政翼賛運動と憲法、議会の翼賛会論戦批判、会議の性格)】

『臣民の道精講・戦陣訓精講』欧文社、1941年9月16日【1 世界新秩序の建設、2 国体と臣民の道、3 臣民の道の実践】

「臣民の道」解説『解説「臣民の道」』<教育パンフレット422>社会教育協会、1941年10月10日

『文化政治の諸問題』大同印書館、1941年10月20日【1 国民文化(国民文化と政治的世界観、国民文化の建設、国家と芸術、日本民族、身分法の問題、家族国家の精神)、2 「政治」の問題(政治力強化の具体策、日本の新政治体制)、3 世界乃至は世界観の問題(「世界」の問題、世界史と国家倫理、世界戦の課題、世界新秩序の日本的構想、世界観の闘争と指導性、ドイツ精神について、学生論)】

『国家権威の研究』高陽書院、1941年11月5日[Die Staatsautorität im sozialen Sein の全訳]【1 用語としての権威、2 権威の概念、3 国家本質の問題、4 国家の本質と国家権威、5 社会存在と社会認識、6 民族、7 権威と民族精神及び表現の問題、8 国家倫理、9 法及び基本権、10 国家権威と主権、付録(法治主義の問題)】

国民文化の建設『出版文化の新体制』<教育パンフレット425>社会教育協会、1941年11月10日

『全体性の政治』<新国民文化叢書第7>目黒書店、1941年12月10日

新世界観の構想—東亜民族の進路—『勝利の記録』国民新聞社、1942年2月28日

『日本の世界観』<同盟戦時特輯1>同盟通信社、1942年3月30日【1 日本の世界観の叫ばれるわけ、2 世界観とは何か、3 日本文化と日本の世界観、4 日本の世界観に於ける『自然』、5 神、6 国土、7 国民、8 国家、9 祭る神、10 惟神の宝祚、11 八紘為宇】

肇国の精神に基く世界歴史の転換『宣戦大詔謹解』朝日新聞社、1942年3月30日

『民のこころ』モダン日本社、1942年4月12日【第1部(序説、民のこころ)、第2部(現状維持の意味するもの、天皇御親政について、指導者論、大東亜権威圏の建設、亜細亜民族問題の基調、大東亜戦争の暁にたちて)、第3部(日本精神と独逸精神、日本民族世界観の確立、米英思想の批判、民族の性格、政治と文化、政治と思想、時代と思考)】

学生への希望『学生生活の創造』健文社、1942年4月15日

『日本国家論』大日本雄弁会講談社、1942年4月18日【1 序説、2 国土、3 歴史、4 神話、5 統治、6 都、7 現代国家学説との関連、8 国民、9 現在に於ける国家の問題】

御稜威と憲法『日本諸学研究報告 第十四篇(法学)』文部省教学局編、内閣印刷局、1942年5月15日

指導者原理論『戦時国民講座 上巻』大日本赤誠会思想局編、新興亜社、1942年5月15日

『新国家観』[オットー・ケールライター著・翻訳]日光書院、1942年6月25日

大東亜戦争の意義『教学叢書 第十二輯』教学局編、内閣印刷局、1942年8月1日[『日本文化』83、1942年10月1日に転載]

『大東亜戦争の世界史的意義』<ラジオ新書88> 日本放送出版協会、1942年8月25日【大東亜戦争の世界史的意義、付篇 近代国家の基本概念】

日本国家学『国家学及政治学(一)』<日本国家科学大系 第3巻>実業之日本社、1942年9月22日【1 日本国家学の課題、2 帝国憲法の本質、3 帝国憲法の規範的構造、4 憲法の全体としての性格、5 憲法に於ける法の観念、6 国家の観念】

大東亜戦争の世界観的意義『世界観講座』東京府思想対策研究会編・刊、1942年9月30日

『国家学研究』朝倉書房、1942年10月5日【1 我が国体と世界法、2 近代国家の基本概念、3 全体国家論の抬頭、4 人種と国家、5 戦争と国家】

国体と政治『国体・生活・科学』則天塾編、葛城書店、1942年10月5日

『大東亜の思想』モダン日本社、1942年10月19日【第1部世界観(宣戦の詔書を拝し奉りて、日本の世界観、「生み」の世界観、日本精神、世界精神の動き)、第2部政治(大東亜政治の基本原理、東洋の理想と現実、制度の問題、共栄圏の観念、政治と教育、民主政の問題)、第3部文化(大東亜文化の基調、国民文化の建設、文化と政治の問題、大東亜戦の意義、知識階級の任務、わが家、戦時と学生)】

大東亜建設の根基『思想戦大学講座』大日本言論報国会編、時代社、1943年1月17日

『国民文化の建設』文芸春秋社、1943年12月15日【1 文化と自由、2 文化と世界観、3 世界観から見た日本文化の地位、4 自由主義の文化観念、5 全体主義に於ける政治と文化、6 皇国の国土、7 皇国の神話、8 日本的世界観、9 国民文化の構造、10 ナチス文化と日本文化、11 世界観国家、12 皇国国民文化の建設、付(訪支印象)】

我が政治『日本文化提要 第一部』国際文化振興会、1944年3月5日

独立親和の原則『大東亜共同宣言』大日本言論報国会編、同盟通信社、1944年4月15日

憲法第三十一條とワイマール憲法『新秩序建設と日本法理』<日本法理叢書別冊 6>日本法理研究会、1944年7月20日

民族と世界観『民族の理論』<民族科学体系1>民族科学研究所編、育英出版、1944年11月15日

『法典論争』[サヴィニー著・翻訳:Friedrich Karl von Savigny, *Vom Beruf unserer Zeit für Gesetzgebung und Rechtswissenschaft*]世界文学社、1949年6月1日

国家学研究記『千家尊宣先生還暦記念神道論文集』神道学会、1958年9月19日

『国家権威の研究』<明治大学法学部審査の博士論文>、1960年【1 国家学における権威の問題、2 権威の種類、3 言葉としての権威、4 権威の概念、5 国家本質の問題、6 国家の本質と国家権威、7 社会存在と社会認識、8 国家、9 権威と国民精神および表現の問題、10 法と基本権、11 国際法における国家権威と主権、12 日本国憲法と国家権威】[『国家権威の研究』(皇学館大学出版部、2010年)収録]

日本国家学の像[「追悼・随想録」]『独逸哲学博士藤沢親雄遺稿 創造的日本学 付諸家追悼・随想録』小見山登編、日本文化連合会、1964年2月11日

西洋的国家観と東洋的国家観『国体論纂下巻』<国学院大学紀要 特集号>国学院大学、1964年3月31日[『国家権威の研究』(皇学館大学出版部、2010年)収録]

健青会への期待『健青運動十五年史一人づくりをつみあげて』日本健青会中央本部、1964年8月15日

『日本国憲法とキリスト教』<憲法問題決定版3>憲法の会、1965年5月【1 日本占領と日本キリスト教化、2 プロテスタティズム、3 自然法思想と理神論、4 「日本国憲法」の否定要素、付録(1 憲法問題選書、2 「日本国憲法」の不当性、3 憲法の会案内)】

Die Nuklearen Waffen und die aufgaboeder Staatsrechtslehr, *Die Moderne Demokratie und ihr Recht. Modern Constitutionalism and Democracy. Festschrift für Gerhard Leibholz zum 65.*

Geburtstag, 1966[日本語訳：「核兵器と国法学の課題」『憲法研究』19、1987年6月23日、『核兵器と国法学の課題』『国家権威の研究』（皇学館大学出版部、2010年）収録]

Aspekte der Planung in Japan, Zum Problem der Autorität von Plänen und Planungsinstitutionen, *Begriff und Institut des Plans*, herausgegeben von Joseph H. Kaiser (Planung, herausgegeben von Joseph H. Kaiser ; 2, 1966

*Eine Zen-Karriere, *Transzendenz als Erfahrung. Beitrag und Wiederhall. Festschrift zum 70. Geburtstag von Graf Dürckheim*, 1966[日本語訳：「我が禅経歴」『核兵器と国法学の課題』収録]

『信仰と学問と教育と』〈西浜だより 第2号〉池田巳代治、1966年1月31日 [『国家権威の研究』（皇学館大学出版部、2010年）収録]

維新と現代『神宮の森 随想百人集』大塚巧藝社、1972年6月1日

『核兵器と国法学の課題』大串兎紀夫、1987年4月5日【1 核兵器と国法学の課題(Die Nuklearen Waffen und die aufgabeder Staatsrechtslehre)、2 我が禅経歴(Eine Zen-Karriere)】

『国家権威の研究 大串兎代夫戦後著作集』皇学館大学出版部、2010年2月20日【国家権威の研究、西洋的国家観と東洋的国家観、憲法の効力、核兵器と国法学の課題、信仰と学問と教育と】

2. 論文等<272 篇>

1931(昭和 6)年

Die Entwicklung des Japanischen Konstitutionalismus seit dem Welt-Kriege, *Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart*, 19 Bd.

1933(昭和 8)年

Die Staatsautarität im sozialen Sein, *Archiv des öffentlichen Rechts*, 23. Bd., Heft 3[部分訳として「社会存在に於ける国家権威」(『日本国家学』高陽書院、1937 年)、全訳は『国家権威の研究』(高陽書院、1941 年)]

ナチスの非常事態論『経済往来』8-13、12月1日

1934(昭和 9)年

最近のドイツ国法学[「新刊批評及思潮概観」]『法学志林』36-1、1月1日

国家本質の問題における国家権威の地位『法学志林』36-3、4、3月1日、4月1日【1用語としての権威、2権威の概念】[Die Staatsautarität im sozialen Sein の部分訳]

ドイツ憲法状勢[「新刊批評及思潮概観」]『法学志林』36-4、4月1日

法と国家倫理『国民精神文化研究所々報』4、5月1日

服従の根拠—ラウンの大著を読み—『国民精神文化研究所々報』5、8月1日

政治の本質『昭和維新』8、13、9月1日、11月15日[『日本の勃興と政治の転換』収録]

全体国家の思想『社会運動往来』6-11、11月1日

法治主義の問題『国民精神文化研究所々報』6、7、11月30日、1935年2月1日

1935(昭和 10)年

議会制度の是非『昭和維新』16、1月1日

経済と政治『昭和維新』18、2月1日[『日本の勃興と政治の転換』収録]

新しき国家学説より見たる天皇機関説『社会往来』7-4、4月1日

憲法第三条『邦人』1-1、4月4日

法治主義思想の没落—最近憲法状勢—『国民精神文化』1-1、6月20日

徒党を組む人組まぬ人『昭和維新』28、7月1日

為政者の貧困『邦人』1-4、7月1日

問題の学と学の問題『国学院雑誌』41-8、8月1日

国際文化の問題『邦人』1-6、9月1日

日本憲法学[「文化講座」]『邦人』1-8、2-1~12、3-6~8、11月1日、1936年1月1日、2月1日、3月1

日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1937年6月1日、7月1日、8月18日

1936(昭和11)年

帝国憲法に就いて[「特別講座」]『教育研究』444、447、1月1日、4月1日
憲法論に就いて『山口県教育』427、1月31日
全体主義の国家観[講演大略]『昭和維新』37、2月1日
法治主義の問題『国民精神文化研究』3-5、3月25日[『国家權威の研究』(高陽書院、1941年)収録]
御親政の御心に随順す『昭和維新』47、12月1日[『日本の勃興と政治の轉換』収録]

1937(昭和12)年

現代法治主義の検討—立憲思想を中心として—『社会往来』9-1、1月1日
深川の死[「随想」]『邦人』3-4、4月1日
改正要目とその重要点の二三『公民教育』7-5、5月1日
非民族的なるもの—大森義太郎氏の「日本への省察」の批判—『社会往来』9-5、5月1日
自由主義的国家論の批判『国学院雑誌』43-5、5月1日
国体戦の認識『邦人一如』3-10、10月1日
政治思想と事変[11月30日於神田一橋講堂]『旬刊講演集』484、12月10日

1938(昭和13)年

神聖なる国家観念『道德教育』7-1、1月1日
官職一如『邦人一如』4-4、4月1日[『日本の勃興と政治の轉換』収録]
人種と国家『国民精神文化』3-4、4-2、3、3月10日、7月10日、9月10日[『国家学研究』収録]
東洋政治学—知と権力—『科学ペン』3-5、5月1日
日本精神と国民精神総動員[4月4日講演於昭徳会主催第1回思想対策講習会]『昭徳会報』3-6、6月10日
民族の世界性の問題『いのち』6-7、7月1日[「民族の世界性」と改題]『現代国家学説』収録]
国家論『思想と文学』4-1、7月1日
自然に具はる心[「新修・日本精神読本」]『週刊朝日』34-8、8月14日[『新修日本精神読本』(朝日新聞社編・刊、1938年)収録]
日本国家の理念—世界主義の批判—『新日本』1-9、9月1日
事変の意義と国家理念の拡大『公民教育』8-11、11月5日

1939(昭和 14)年

- ケールロイター教授のことも『ドイツ』3-1、1月1日
- 国民社会主義的法治国家[オットー・ケールロイター著：翻訳]『法学協会雑誌』57-1、1月1日
- 東亜の事態と新しき政治理念—領土の観念—『理想』92、1月1日[『東亜協同体思想研究』(日本青年外交協会編・刊、1939年)、『現代国家学説』収録]
- ナチス独逸に於ける党と国家との関係[オットー・ケールロイター著：翻訳]『法学』<東北帝国大学>8-3、3月1日
- 我が国体と世界法『国民精神文化研究』41、3月25日[『国家学研究』収録]
- 国際法学に於ける新傾向『学生生活』2-4、4月1日
- ナチス公法学の動向『国民精神文化』5-4、4月1日
- 戦争と政治—北支より帰って—『国民思想』5-6、6月1日
- ナチス・独逸に於ける職分自治制[オットー・ケールロイター著：翻訳]『法学論叢』<京都帝国大学>41-1、7月1日
- 土と人『青年』24-8、8月1日
- チロルの英雄『青年』24-11、11月1日
- ナチ独逸に於ける文化・宗教・教育及学問の法的地位[オットー・ケールロイター著：翻訳]『法政研究』<九州帝国大学>10-1、12月30日

1940(昭和 15)年

- 現在日本の憲法的構造[ケールロイター著：翻訳]『日本評論』15-1、1月1日
- 日本国家学の理念『国民思想』6-1、1月1日[『現代国家学説』収録]
- 「文化孤立論と八紘一字の意義」『宗教公論』9-3、3月15日
- 帝国憲法と臣民の翼賛『日本文化』54、4月1日[『帝国憲法と臣民の翼賛』<国体の本義解説叢書 第8>から転載]
- 近代国家の基本概念『国民精神文化』6-5、5月1日[『国家学研究』『大東亜戦争の世界史的意義』収録]
- 近代国家の基本概念—権力・権威・稜威—『神道研究』1-2、5月15日
- 大ドイツを語る『公論』3-8、8月1日[座談会：稲垣守克、竹内時男、谷口吉郎、松本徳明、山口喜雄]
- 独逸の国家思想[「ナチス・ドイツの再認識」]『国民評論』12-8、8月1日
- 戦争の全体性『国民評論』12-8、8月1日
- 天皇親政論『公論』3-9、9月1日[「天皇御親政」と改題]『現代国家学説』収録]
- 三国同盟の世界観的意義『公論』3-11、11月1日
- 日本の新政治体制『理想』114、11月1日[『文化政治の諸問題』収録]
- 大日本帝国憲法の精神『主計会報告』148、11月15日
- 万民翼賛の道『アカツキ』15-12、12月5日

チロルの秋[「随筆」]『週刊朝日』38-25、12月8日

国家倫理論『公民教育』10-12、12月30日

1941(昭和16)年

権威論—指導者と指導性—『公論』4-1、2、1月1日、2月1日[『現代国家学説』収録]

日本国家観『国民思想』7-1、1月1日

大政翼賛運動と憲法『文芸春秋』19-1、1月1日[『現代国家学説』収録]

法と国家倫理『法律時報』13-1、1月1日[『現代国家学説』収録]

斯くあるべき議會『公論』4-2、2月1日[座談会：杉浦武雄、杉山平助、船田中、村松久義、上村勝弥]

世界観の闘争と指導性『政界往来』12-2、2月1日[『文化政治の諸問題』収録]

歴史・国家・世界『日本評論』16-2、2月1日[『現代国家学説』収録]

「日本革新方式の確立」座談会『文芸春秋』19-3、3月1日[座談会：秋永月三、今牧嘉雄、中村彌三次、東浦庄治]

議会の翼賛会論戦批判[「論説及時評」]『エコノミスト』19-10、3月10日[『現代国家学説』収録]

会議の性格『公論』4-4、4月1日[『現代国家学説』収録]

憲法理論の革新『国民評論』13-4、4月1日

新体制の核心『専売』344、4月1日

ナチスへの理解『文芸春秋』19-4、4月1日[『現代国家学説』収録]

憲法学の打開 黒田覚氏著『国防国家の理論』『京都帝国大学新聞』328、4月20日

家族国家の精神『国民精神文化』7-5、5月1日[『文化政治の諸問題』収録]

家族国家の精神『実業之日本』44-9、5月1日

新日本建設と文化『政界往来』12-6、6月1日[座談会：佐藤得二、土屋喬雄、永井浩、藤野恵、船田中、松前重義]

我が国憲法の特質『青年』26-6、6月1日

学生生徒と勤労青年『青年指導』6-3、6月1日

世界新秩序の日本的構想『東亜解放』3-6、6月1日[『文化政治の諸問題』収録]

国民文化と政治的世界観『日本評論』16-6、6月1日

出版文化政策—国家的職分観念に立脚『日本読書新聞』157、6月5日

日本民族『公論』4-7、7月1日[『文化政治の諸問題』収録]

学生論『新若人』2-4、7月1日

「世界」の問題『日本評論』16-7、7月1日[『文化政治の諸問題』収録]

戦時新道徳の確立『報知新聞』7月21～24日【覚悟の精神、同胞感の振起、“国”の倫理、日本的世界観】

世界戦の課題『イタリア』1-5、8月1日[『文化政治の諸問題』収録]

政治力強化の具体策『現代』22-8、8月1日[『文化政治の諸問題』収録]

ナチス文献 執筆態度に疑義[「書評」]『朝日新聞』8月11日

翼賛会の国民的主体性『現代』22-9、9月1日

日本精神と独逸精神『国民評論』13-9、9月1日

日本評論時局研究会『日本評論』16-9、9月1日[座談会：津久井龍雄、永田清、穂積七郎、山崎靖純、室伏高信]

国民文化の建設『文化日本』5-9、9月1日[『文化政治の諸問題』『大東亜の思想』収録]

「現代の思想に就いて」座談会『文芸春秋』19-9、9月1日[座談会：三木清、小林秀雄、大熊信行][『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録]

国家と芸術『国画』1-1、9月10日[『文化政治の諸問題』収録]

世界緊迫と日本精神『実業之日本』44-18、9月15日

日本精神と科学『科学主義工業』5-10、10月1日[6月27日座談会(於晚翠軒)：玉虫文一、大熊信行、佐藤信衛、北岡馨]

日本的国民政治への要望『公論』4-10、10月1日

戦争と道徳『新女苑』5-10、10月1日[座談会：杉森孝次郎、河上徹太郎、阿部静江]

人生観断想—時代と考へ方—『政界往来』12-10、10月1日

日本評論時局研究会『日本評論』16-10、10月1日[座談会：津久井龍雄、永田清、穂積七郎、山崎靖純、室伏高信]

亜細亞民族問題の基調『興亜』2-10、10月18日[『民のこころ』収録]

現状維持の意味するもの『改造』23-22、11月1日[『民のこころ』収録]

壮年団運動『日本評論』16-11、11月1日[第3回日本評論時局研究会：狭間茂、留岡清男、小野武夫、加田哲二、穂積七郎、津久井龍雄、室伏高信]

民のこころ『文芸春秋』19-11、11月1日[『民のこころ』収録]

現実と永遠の昭見の書要望[「読書講座 国家学」]『日本読書新聞』174、11月10日

事変と道徳[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』11月29日

国家と個人『実業之日本』44-23、12月1日

天皇御親政について『新指導者』4-10、12月1日

世界性の把握『新若人』2-9、12月1日

文化の運命『日本評論』16-12、12月1日[第4回日本評論時局研究会：松本潤一郎、岸田国土、三木清、津久井龍雄、穂積七郎、室伏高信]

永遠の従順[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月6日

民族の性質[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月13日

平和の御宸念[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月20日

外地との連絡[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月31日

1942(昭和17)年

- 政治と文化『国民美術』2-1、1月1日[『民のこころ』収録]
- 大東亜戦争の暁に立ちて『日本評論』17-1、1月1日[『民のこころ』収録]
- 愛読の書[「読書随想」]『婦人之友』36-1、1月1日
- 文化戦争『文芸』10-1、1月1日[座談会：加田哲二、津久井龍雄、中島健蔵]
- 日本民族世界観の確立『文芸春秋』20-1、1月1日[『民のこころ』収録]
- 大東亜後威圏の建設『イタリア』2-2、2月1日[『民のこころ』収録]
- 民族の性格『オール読物』12-2、2月1日[『民のこころ』収録]
- 宣戦の詔書を押し奉りて『青年』27-2、2月1日[『大東亜の思想』収録]
- 思想革新の方途『文芸春秋』20-2、2月1日[対談：野村重臣]
- 米英思想の批判—世界の観念について—『時局雑誌』1-2、2月7日[『民のこころ』収録]
- 新嘉坡陥落後に処する覚悟 輝く建設の世紀『読売新聞』2月18日
- 英国の国民性[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』2月21日
- 軍政論『改造』24-3、3月1日
- 日本的叡智の覚醒『文芸春秋』20-3、3月1日[対談：山崎靖純]
- 青年アジアの捷利—シンガポール陥落の感激—『現地報告』54、3月7日
- 文化生産の目標[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』3月7日
- 軍神を生む母親 子供の為にある献身の生活 強国を創る陰の礎『読売新聞』3月11日
- 郷土精神[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』3月14日
- ドイツの日本研究熱[「文化」]『読売新聞』3月19、20日【天心の『茶の本』、惟神道の把握】
- 藩の力[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』3月21日
- 文化と伝統—第三回新女苑文化講座講演—『新女苑』6-4、4月1日
- 知識階級の任務『知性』5-4、4月1日[『大東亜の思想』収録]
- 時務対談 翼賛議会確立のために『文芸春秋』20-4、4月1日[対談：山崎靖純]
- 政治と教育『日本教育』2-1、4月5日[『大東亜の思想』収録]
- 国家倫理の展開 学ぶべきデュルクハイムの論理構造『日本読書新聞』194、4月6日
- 「大東亜建設者の資格」座談会『現地報告』55、4月7日[座談会：蘆田英祥、今村忠助、神田孝一、古屋芳雄、杉浦健一、瀬川次郎]
- *日本文化の建設と世界観『敬慎』[16-4]、4月13日[国立中央図書館台湾分館所蔵]
- 大東亜共栄圏と民族問題『東洋経済新報』2016、4月11日[3月23日座談会：伊藤敬、杉森孝次郎、加田哲二、金内良輔、成田節男、石橋湛山、佐藤伊兵衛]
- [「翼賛選挙への要望」]『東洋経済新報』2016、4月11日
- マレー戦記[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』4月18日

大東亜の文化建設[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』4月25日
詔の神聖『昭徳』7-5、5月1日
皇室に帰一し奉る神代ながらの日本精神[「世界に誇る日本民族」]『青年』27-5、5月1日
文化と政治の問題『中央公論』57-5、5月1日[『大東亜の思想』収録]
大東亜建設と日本文化『文芸春秋』20-5、5月1日[対談：山崎靖純]
[「マレー作戦報告を読んで」]『文芸』10-5、5月1日
現実的思索の発展 総合雑誌(五月号)を批判す『日本読書新聞』198、5月4日
花守の心[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月16日
日本的世界観の基本構造『文芸春秋』20-6、6月1日[対談：鈴木重雄]
前進する日本主義理論 六月号の総合雑誌に見る論壇の動き『日本読書新聞』203、6月8日
国内政治問題を通して『時局雑誌』1-7、7月7日
大東亜倫理宣言『現代』23-8、8月1日
共栄圏観念の問題『創造』12-8、8月1日[「栄圏の観念」と改題『大東亜の思想』収録]
日本的世界観[5月26日講演筆記]『大東文化』99、8月1日
世界観と国民文化の創造『文化日本』6-8、8月1日
世界精神の動き『時局雑誌』1-8、8月7日[『大東亜の思想』収録]
思想戦の目標『文芸春秋』20-9、9月1日
*必勝の信念『学生』[26-6]、9月
大東亜戦争の意義『日本文化』83、10月1日[『大東亜戦争の意義』<教学叢書 第12輯>から転載]
文化の反省『改造』24-11、11月1日[鼎談：難波田春夫、肥後和男]
全体国家としての政治『経済市場』13-11、11月1日
十二月八日の反省『文芸春秋』20-11、11月1日
招魂のみ祭りに参列して『現地報告』62、11月7日
御稜威と權威『日本諸学』2、11月20日[表紙では7月15日発行と記載]
めぐる感激十二月八日肇国の朝の心『朝日新聞』12月1日
美の発見『新女苑』6-12、12月1日
御稜威と生命『神道研究』3-4、12月1日

1943(昭和18)年

新しき世界観[「戦時女性読本」]『婦人日本』9-1、1月1日
「必勝責任感の徹底」座談会『現地報告』64、1月7日[座談会：暉俊義等、中井良太郎、穂積七郎、松前重義]
肇国の朝『国民講座』467、2月1日

家族国家の精神『満州経済』4-2、2月1日
民主主義世界の終焉『時局雑誌』2-3、2月7日[対談：齊藤忠]
決戦下に肇国の精神を思ふ『朝日新聞』2月11、12日
国家論と学問論『日本評論』18-3、3月1日[座談会：大熊信行、酒枝義旗、土屋清、岩井主蔵]
大和民族精神の光被『通信協会雑誌』415、3月5日
尊攘言論の決戦態勢『公論』6-4、4月1日[2月5日座談会：尾崎士郎、山岡荘八、齊藤瀏、満田巖、島田春雄、塚原富衛]
復興する出版活動—中日文化大会に臨んで『日本読書新聞』246、4月24日
国家学とは何ぞや『日本評論』18-5、5月1日[座談会：大熊信行、酒枝義旗、土屋清、岩井主蔵]
国体と経済『日本評論』18-5、5月1日
大東亜共栄圏の法学的意義『理想』145、6月1日
民族魂の結合 日支提携の基本問題『改造』25-7、7月1日[鼎談：谷萩那華雄、齊藤响]
再建支那の文化対策『現代』24-7、7月1日[座談会：伏見猛彌、山崎靖純]
国家と美『生活美術』3-7、7月1日
訪支の記録『文芸春秋』21-7、7月1日
民族と国家—訪支偶感—『国際文化』26、7月10日
精神戦『ドイツ』4-15、8月1日
民族と国家『日本医事新報』1094~1096、9月18、25日、10月2日
勝利へ学園の挺身 文武一如の固有精神の実現を『読売報知』9月23日[『新聞記事資料集成 労働編 第6巻』(大原新生社、1975年)収録、ただし、掲載日を24日と誤記]
心のあり方[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』9月29日
決戦態勢強化の思想基盤『合同新聞[夕刊]』10月10~13、15、18、19日[9月30日、合同新聞社本社主催座談会(於虎の門晩翠館)：鹿子木員信、小畑忠良、穂積七郎、井沢弘]
雑誌の使命[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』10月23日
非常体制と帝国憲法『中央公論』58-10、11月1日
座談会国土防衛『日本評論』18-11、11月1日[座談会：加藤義秀、奥井復太郎、白神勤、桐原葆見]
思想の国家性と統合性『東京新聞』11月[8]~12日【[1 未見]、2 戦争の原動力、3 深い体験から、4 国家世界観、5 対外的働き】

1944(昭和19)年

大詔の根本義『中央公論』59-1、1月1日
大東亜の精神『改造』26-1、1月1日
日本憲法と国体の自覚『理想』152、1月5日
共存共栄[「大東亜宣言に寄す」]『合同新聞[夕刊]』1月14日

独立親和の原則[「大東亜宣言開顕」]『読売報知』1月14日[大日本言論報国会編『大東亜共同宣言』(同盟通信社、1944年)収録]

戦力増強の精神『言論報国』2-3、3月1日

総合雑誌論『日本評論』19-3、3月1日

日の本に生きる『少女の友』37-5、5月1日

戦争と法『翼賛政治』3-6、6月1日[座談会：穂積重遠、村瀬直養、野津努、小野清一郎、前原光雄、船田中、森山鋭一]

大東亜共同宣言と日本美術『美術』1-5、6月3日

家と戦力『現代』25-7、7月1日

法学・経済学の反省[「警世時言」]『言論報国』2-7、7月1日

天皇御法治の精神『中央公論』59-7、7月1日

思想戦の認識『言論報国』2-10、10月1日

独逸の運命『ドイツ』5-19、10月1日

我ら憤激を新にせん 神州不滅の確信『週刊毎日』23-41、10月15日[座談会：房内幸成、田中忠雄、西野出版局長ほか]

国民思想の決戦『大日本教育』794、12月1日

1945(昭和20)年

日本思想戦の把握[「新春特輯 必勝国家体制の確立」]『日本読書新聞』320、1月1日

家的生産国の展開『翼賛政治』4-1、1月1日

[「大東亜共同宣言五原則の理念を聴く会」談話要旨]『文学報国』44、1月10日

家国と民主政『満州公論』4-2、2月1日

非常大権の本質『毎日新聞』6月18、19日

日本の現状『公論』8-7、7月1日

1951(昭和26)年

戦後憲法論の批判『日本及日本人』2-10、11、3-1、10月1日、11月1日、1952年1月1日

1952(昭和27)年

精神の流れ『日本及日本人』3-2、2月1日

天皇制の復活は可能か『改造』33-13、9月15日

世界憲法情勢『政治公論』1、12月1日

1953(昭和 28)年

国家浮動時代『政治公論』2、3月1日

「危期」と「決定」－精神的独立について－『政界往来』19-7、7月1日

「わたくし」について『国論』1-7、9月1日

1954(昭和 29)年

右翼は立ち上るか－嫌われる右翼立ち上りの原動力－『政界往来』20-1、1月1日

戦後ドイツの国家論『政界往来』20-6、6月1日

ボン基本法における民主法治国の憲法裁判権[翻訳：ゲルハルト・ライブホルツ著]『名城法学』4-3・4、5-1、6-1・2、3・4、11月5日、1955年4月10日、1956年9月5日、1957年3月5日

1956(昭和 31)年

オットー・ケールロイター「国家学概説」Otto Koellreutter, Staatslehre im Umriss, Januar 1955[書評]『名城法学』5-2、1月10日

Die japanische Verfassung vom 3. November 1946, *Jahrbuch des öffentlichen Rechts, Neue Folge* BD.5

1959(昭和 34)年

時の流れ『四次元』100、1月10日[続橋達雄編『宮沢賢治研究資料集成 第13巻』(日本図書センター、1992年)収録]

1962(昭和 37)年

学者の良心と責任について『政治公論』44、1月1日

ワイマール憲法と日本国憲法『流れ』10-6、6月8日

1963(昭和 38)年

聖徳太子と創価学会『流れ』11-7、7月8日

ユダヤ的革命思想『流れ』11-11、11月8日

誤った民主主義が及ぼす影響『政界往来』29-11、11月10日

日本国家の起源－井上光貞博士に問う－『神道宗教』33、11月30日

1964(昭和 39)年

国家権威と教育『学校経営』9-1、1月1日

腹「Hara」－人間の中心的なもの－[G・V・デュルクハイム著・訳]『大法輪』31-4、4月1日

国家の教育権－宗像教授に問う－『学校経営』9-8、8月1日

国の基『政界往来』30-9、9月10日

神道の概念－神道文化の思惟方法－『神道宗教』37、10月31日

教育勅語について『流れ』12-11、11月8日

1965(昭和40)年

神道と憲法『神社新報』887、1月2日[『神社新報選集 昭和四十一年版』(神社新報社、1966年)収録]

政治哲学の貧困『政界往来』31-2、2月1日

日本国憲法とキリスト教[1965年3月19日第37回現代神道研究会発言要旨]『国学院大学日本文化研究所報』2-2、4月20日

論壇時評『神道宗教』39、6月1日

新憲法亡国論『バルカノン』21、6月3日

論壇時評『神道宗教』40、9月1日

憲法問題の根本『不二』20-9、9月25日

教科書検定と憲法－家永教授の提訴とその見解を中心に－『学校経営』10-10、10月1日[宇野精一編『歴史教育と教科書論争 亡国の論理を衝く』(日本教文社、1968年9月15日)収録]

憲法の効力『憲法研究』4、10月13日[『国家権威の研究』(皇学館大学出版部、2010年)収録]

憲法以前『流れ』13-11、12、11月8日、12月8日

1966(昭和41)年

クレアモント国際神道会議記念討論会第二部会[1965年12月11日於明治神宮参集殿]『国学院大学日本文化研究所報』3-1、1966年2月25日[発言者：上田賢治(司会)、W.P.ウッダート、葦津珍彦、戸田義雄、平井直房、谷省吾、小林健三、岩本徳一]

1967(昭和42)年

社会革命について『神社新報』983、1月7日[『神社新報選集 昭和四十六年版』(神社新報社、1971年)収録]

社会革命について『新勢力』12-2、2月5日

最近の東西ドイツと日本[1966年10月30日記念講演於憲法の会大会]『真世界』5737、5738、3月1日、4月1日[転載：最近の東西ドイツと日本(講演速記)『憲法研究』10、1974年10月14日]

1974(昭和49)年

最近の東西ドイツと日本(講演速記)『憲法研究』10、10月14日

1987(昭和 62)年

核兵器と国法学の課題 『憲法研究』 19、6月 23日